

【正 誤 表】

WSP 064-2023 水管橋設計基準（耐震設計編）

頁	誤	正
34	<p>1) 橋台の場合</p> <p>既往の地震において、橋台に設置された支承部の被害が多いという事実は特段確認されていないことを考慮すると、設計水平震度相当の慣性力よりは低減されると考えられている。そのため、「道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編」ではエネルギー一定則を考慮したレベル2地震動の設計水平震度として、これまでの示方書でも示されていた支承部に作用する水平力の大きさと同様になるように、設計水平震度の標準値の0.45倍から算出される慣性力を上部構造の慣性力として考慮すればよいとしている。</p> <p><math>k_{h2} = 0.45 \cdot k_{h02}</math>…………… (解 7.2.1)</p> <p>ここに、<math>k_{h2}</math> : 橋台の場合の支承及び上部構造の設計水平震度  <math>k_{h02}</math> : 3.2.3 設計水平震度に示す設計水平震度の標準値  「道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編」の場合は、  (<math>k_{h02} = k_{h0}</math>, <math>k_{lh0}</math>) 表-解 3.2 及び表-解 3.3 による。</p>	<p>1) 橋台の場合</p> <p>既往の地震において、橋台に設置された支承部の被害が多いという事実は特段確認されていないことを考慮すると、設計水平震度相当の慣性力よりは低減されると考えられている。そのため、「道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編」ではエネルギー一定則を考慮したレベル2地震動の設計水平震度として、これまでの示方書でも示されていた支承部に作用する水平力の大きさと同様になるように、設計水平震度(地域別補正係数と設計水平震度の標準値の積)の0.45倍から算出される慣性力を上部構造の慣性力として考慮すればよいとしている。</p> <p><math>k_{h2} = 0.45 \cdot c_{nz} \cdot k_{h02}</math>…………… (解 7.2.1)</p> <p>ここに、<math>k_{h2}</math> : 橋台の場合の支承及び上部構造の設計水平震度  <math>k_{h02}</math> : 3.2.3 設計水平震度に示す設計水平震度の標準値  「道路橋示方書・同解説Ⅴ耐震設計編」の場合は、  (<math>k_{h02} = k_{h0}</math>, <math>k_{lh0}</math>) 表-解 3.2 及び表-解 3.3 による。  <math>c_{nz}</math> : 表-解 3.4 の地域別補正係数 (<math>c_{nz} = c_{lz}</math>, <math>c_{lz}</math>)</p>